

ふりがな 氏 名	おのづか みのる 小野塚 實	職 名	教授
取得学位	医学博士・理学博士	学会での受賞歴	日本組織細胞化学会論文賞(平成2年12月) American Association for Dental Research William J Gies Award (平成16年7月)
主な担当科目	生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生理学実習		
所属学会			

◆ 教育業績

事 項	実 施 年月(日)	概 要
講義内容の理解を深めるため、視覚情報を利用した授業を実施	平成29年4月～平成30年3月(日本体育大学)、平成30年9月～平成31年3月(名古屋女子大学)	人体の構造と機能を3次元的に捉えることにより理解し易くなる。この挑戦のため、講義ではパワーポイントによる視覚素材を多用するとともに、この視覚素材を用いたスライドを講義プリントとして配布した。プリントは完成させたものではなく、空白・空欄を設け、学生たちが講義を聞き、書き込むことにより、各学生独自のプリント作りができるように配慮した。視覚素材の問題が増加傾向にあるコメディカル国家試験対策に活用してもらうのも目的の一つである。学生からは分かりやすいと好評であった。
小テストの実施	平成29年4月～平成30年3月(日本体育大学)、平成30年9月～平成31年3月(名古屋女子大学)	学修内容毎に多肢選択テスト(10問)を実施した。問題は国家試験出題基準に基づいて出題した。これは学生と教員の両者が学習到達度及び学力の推移を把握することができるというメリットがあったと同時に、コアメディカルの国家試験対策に対し早期に慣れるという意味で、重要である。
チーム基盤学習(TBL)の実施	平成29年4月～平成30年3月(日本体育大学)	チーム基盤型学習(team-based learning、TBL)には理論と経験に裏打ちされたさまざまな教育方略のエッセンスが集約されており教員一人当たりの学生数が多いクラス(例えば1:200)で少人数グループ学習をさせる効率のよさと、比率の低いクラス(例えば1:7)で教員主導により少人数グループ学習をさせる高い教育効果とを合わせもっている。TBLの有効性は、学習グループのメンバー間に強いまとまりと信頼が育まれることによって生み出される。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月 (日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
論 文	Tooth loss early in life suppresses neurogenesis and synaptophysin expression in the hippocampus and impairs learning in mice	共	平成 29 年	Arch Oral Biol, Vol 74	Kubo KY, Murabayashi C, Kotachi M, Suzuki A, Mori D, Sato Y, <u>Onozuka M</u> , Azuma K, Iinuma M p. 21-27
	Maternal active mastication during prenatal stress ameliorates prenatal stress-induced lower bone mass in adult mouse offspring	共	平成 29 年	Int J Med Sci, Vol 14	Azuma K, Ogura M, Kondo H, Suzuki A, Hayashi S, Iinuma M, <u>Onozuka M</u> , Kubo KY p. 348-355
	CXCL14-like immunoreactivity exists in somatostatin-containing endocrine cells, and in the lamina propria and submucosal somatostatinergic nervous system of mouse alimentary tract	共	平成 29 年	Acta Histochem Cytochem, Vol 50	Suzuki H, Yamada K, Matsuda Y, <u>Onozuka M</u> , Yamamoto T p. 149-158